「す」　菅生神社（縁起絵巻）

菅生神社は、延喜式に記載されている式内社です。中世に、菅原道真を祀る天神信仰が行われていたようで、江戸時代には、菅生天満宮と呼ばれていました。現在の本殿は、万治四年（一六六一）に建立されたもので、堺市有形文化財に指定され、平成十八年度から十九年度にかけて解体修理が行われました。神社に伝わる寺宝としては、応永三十四年（一四二七）奉納の「北野天神縁起絵巻」や延宝八年（一六八〇）の「菅生宮并高松山天門寺縁起絵巻」があり、万治に建てられた本殿の姿が描かれています。

「た」　河内鋳物師

河内鋳物師は、平安時代末から鎌倉・室町時代に活躍した鋳造技術者集団で、河内国を居住地もしくは出身地として、日本全国に作品を残しています。

河内鋳物師が造ったものとしては、梵鐘が多く残されていますが、奈良県東大寺の大仏の再興にも携わっていました。東大寺の大仏は、平安時代末に平家によって行われた南都焼き討ちで、大部分が焼失をしてしまいました。鎌倉時代に再興されましたが、この時に河内鋳物師の草部是助らが参加しました。また、梵鐘の銘文の中にも「黒山」の地名が刻まれたものもあります。

美原区内には、「鍋宮大明神碑」があります。これは、始めて鉄の鍋を作った「鍋子丸」を祀ったもので、有志の手により、碑が建てられています。

「つ」　治水顕彰碑

北余部の西除川の近くに石碑が建てられています。碑文によれば、北余部は西除川が屈折しているためびたび水害に会い、特に明治十七・八年（一八八四・五）の被害は大きかったようで、洪水から村を守るため築堤の計画がたてられ、堤防は明治二十七年（一八九四）に完成しました。

大正二年（一九一三）北余部の人達はその功を永らく顕彰するために治水顕彰碑を建立しました。

「と」　徳泉寺跡（丹比廃寺）

徳泉寺は、真言宗金剛峯寺の末寺で、「大阪府全史」によれば、大日如来を本尊とし、空海が開祖と記載されています。

また、松永久秀が伽藍を破壊し、城を築いたと書かれています。その後、松永久秀敗退後再興され、昭和十四年（一九三九）に火災により焼失し、その全容は不明です。周辺の小字名から推察すると、中世には、城郭が築かれていたと思われます。

徳泉寺が建てられる以前は、丹比寺という奈良時代に建立された寺院があったようですが、創建時の瓦の出土はあるものの、規模等は不明です。現在、徳泉寺跡に残る基壇状の遺構は、丹比廃寺塔跡として大阪府の史跡として保存されています。最近の調査で、奈良時代の遺構ではなく、中世のものの可能性が高くなり、徳泉寺城との関わりが指摘されています。

「な」　平尾城址

南北朝の頃、楠木正成により、平尾丘陵に城が築かれたと伝えられています。別名涅槃城とも言います。「後太平記」などで、平尾で、合戦があったことが書かれています。また、さつき野住宅の開発時の発掘調査で土塁状の遺構が発見されています。

「ほ」　丹比神社

丹比神社は、この地を本拠地とした丹比連が、氏族の祖とする、火明命を祭神とし、延喜式に記載されている式内社です。時期は不明ですが、反正天皇（瑞歯別命）を祀っており、境内には、反正天皇産湯の井戸の伝承を持つものがあります。

「ゆ」　多治井義人碑

寛文九年（一六六九）に村人の窮状を救うためご法度の直訴を行い、首をはねられたという、野島某（野沼とも）の霊を慰めるために建てられました。「お手とお足は、お江戸に　御座る　首は田（多）治井の　野沼塚」と語りつがれています。ただし、寛文九年の水争いの結末を記録した裁定書には、京都所司代の署名が見られることから、江戸で処刑されたとする部分は、今後検討する必要があると思われます。角右衛門治水頌徳碑や多治井義人碑の伝承などから、江戸時代の美原地域は、農業用水の確保に苦労したことが伺われます。